

# 行事報告

## ザ・シンポジウムみなと in 十勝

令和7年11月27日(木)に帯広市民文化ホールにおいて、「ザ・シンポジウムみなと in 十勝」を開催しました。「ザ・シンポジウムみなと」は、港湾の重要性や必要性を理解していただくとともに、広く港湾をPRすることを目的として平成6年より開催しており、33回目の開催となります。今回のシンポジウムでは「産直港湾・十勝港の利活用拡大に向けて」をテーマに、講演とパネルディスカッションを行い、十勝港の果たす役割や将来像について討論が行われ、約220名の方が熱心に聴講されました。

はじめに、主催者を代表してザ・シンポジウムみなと実行委員会の遠藤仁彦委員長、開催地を代表して、田中靖章広尾町長、米沢則寿帯広市長(吉田誠 帯広市経済部長代読)から開会の挨拶がありました。

第1部の講演では、「島国北海道～海上物流の重要性～」と題して、丸谷智保(株)セコマ取締役会長から、食糧の安全保障に関わる、食料の安定供給と北海道の重要性や港湾の役割の説明があり、北海道の物流の9割以上は船に依存しており、海上物流は道内と道外、海外を結ぶ生命線であり、また、国内輸送では海運が



第1部 講演状況

必ずしも時間がかかるわけではないことなどセコマでの物流の取組み事例を交えて、ご講演いただきました。第2部のパネルディスカッションでは「産直港湾・十勝港の利活用拡大に向けて」をテーマに、ご講演の丸谷智保(株)セコマ取締役会長に加え、田中靖章 広尾町長、野口正浩 北海道十勝総合振興局長、藤江成宏 DP World Japan(株)代表取締役社長、河辺肇 日清製粉(株)業務本部ふすま・末紡グループ グループリーダー、池下藤一郎 池下産業(株)代表取締役社長の6名が登壇し、キャスターの菅井貴子氏をコーディネーターとして討論が行われました。

丸谷会長からは十勝港を使うメリットは何か魅力をはっきり示すことが重要、田中町長からは輸出拡大の体制整備、野口局長からは航空関連産業の集積等による十勝港の利用拡大の可能性、藤江社長からはコンテナ内の荷物を載せるパレットの規格の統一や複数船社による利便性向上の提案、河辺グループリーダーからは小麦粉の副産物であるふすまのコンテナ輸送や課題、池下社長からはイワシが原料の魚粉及び魚油の輸



第2部 パネルディスカッションの状況

出状況や輸出拡大の可能性など、十勝港の利活用拡大について、それぞれ発言され理解が深まりました。また、会場の入口ホールにおいて、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構による「みなとパネル展」も開催され、多くの方にご覧いただきました。

※シンポジウムの内容(挨拶、第1部、第2部)の動画(約140分)は、寒地港湾空港技術研究センターのホームページにてご覧いただけます。